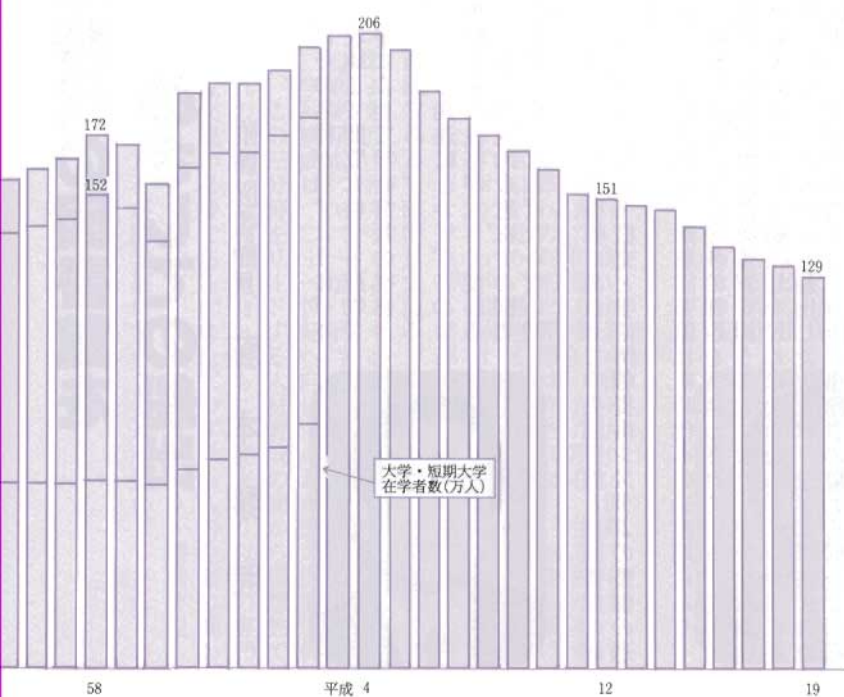




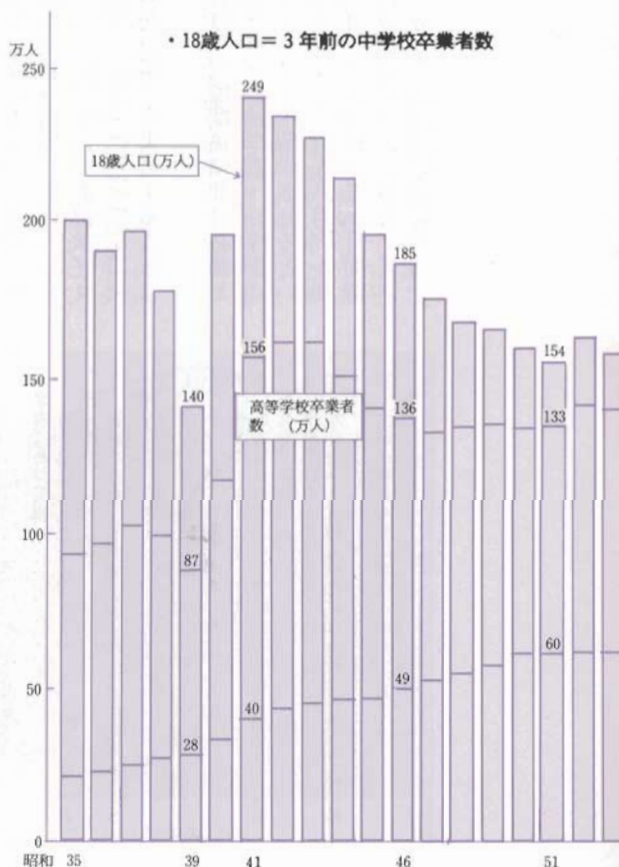
大学冬の時代に向けて

―五つの私立大学の取り組み―





高等教育の規模等の推移



はじめに

広報委員 小池 正夫

表から明らかなように、十八才人口は平成四年度がピークで、以後は急激に減少し、平成十二年度にはピーク時に比し五十万人以上も減少する。いわゆる「大学冬の時代」の到来である。この厳しい時代に向けて、各大学は文字通り生き残りをかけて、教育・研究や組織・施設等の改革・整備に取り組んでいる。

広島大学では、昨年「広島大学の教育研究の整備改善について(大綱)」(フォーラム二期一号特集)が発表された。これに沿って現在自己点検・評価の作業と同時に、各学部での一貫カリキュラムの作業も急ピッチで進行している。しかしながら、魅力ある広島大学を創るためには、これらの作業の結果

待ちになることなく、次々とアイデアを打ち出していく必要がある。

そこで、そのアイデアを生み出す一助になればと思ひ、私立大学の比較的自由な立場からなされている魅力ある大学づくりの取り組みを、先進的な五大学についてご紹介することにした。

広島大学にとって困難なことは、この大事な時期に、東千田キャンパスから西条キャンパスへの統合移転の完了という難問も抱えていることである。教職員にとって、移転作業という過重な負担にあえぎながら、夢を語ることはとても難しいが、西条の新キャンパスへの統合移転は、魅力ある大学づくりを進める広島大学にとって切札であるというプラス思考も必要であるように思う。「下宿問題」を始めとする様々な問題を克服していきながら新しい広島大学の一ページを創っていか

ければならない。特に、知性をみがき充実した大学生活をおくるためには、最新の情報から古典まで幅広い分野の本にふれられる本屋の存在はかせないものであり、このような大学のソフトウェアとでもいふべき問題に対処する執行機関が必要である。

今回、各私立大学にご執筆をおねがひしたところ、年度末でご多用中にもかかわらず、いずれの大学にも快く執筆をお引き受け頂いた。ここに心から感謝申し上げ次第である。また、各私立大学の広報担当の方に電話で執筆をお願いした際に、広報活動を非常に重視しているということ強く感じた。大学の魅力づくりには広報活動はかせないと思う。さらに構成員一人一人の自覚と奮起もさることながら、夢をかかげ、理念を唱う強力な執行部の存在も不可欠と思う。